

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500029		
法人名	善心会		
事業所名	グループホーム りんどう (橙)		
所在地	岐阜県安八郡神戸町北一色555-1		
自己評価作成日	令和4年10月19日	評価結果市町村受理日	令和4年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「夢 感動 笑空間 小さな夢の実現も大きな感動へ つなげよう笑顔で安心できる空間作りを目指します」を理念としてご利用者、ご家族、ご友人、地域の方、職員と交流を大切に、笑顔になって頂けるように日々の生活の中で、お互い出来る事を協力し合い持っている力を発揮して頂けるように支援に努めています。近くの小学生とのふれあいや近所へのあいさつや関わり活動を行い、寺カフェやローズカフェに参加し気分転換や地域の方とのコミュニケーションを目的に外へ行く事や地域への社会福祉の貢献にも取り組み好評を頂いています。明るく優しい職員と共に笑顔で過ごして頂いています。地域密着型施設として地域と繋がるきっかけをこれからも作って行こうと思います。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoCd=2192500029-00&SerViceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和4年11月25日

日々の小さな夢や感動をつなげて笑空間を作るため、職員は利用者の日々の一言を聞き逃さないように努め、記録に残して全職員で共有している。お経をあげたいという人と一緒にお経を読んで思いをかなえたりしている。看護師や栄養士が常駐し、利用者の健康管理をしている。重度化や終末期に向けた支援は、医師から家族に直接説明があり、コロナ禍でも泊まり込んで寄り添えるようにして、思いに沿った支援をしている。コロナ禍の自粛で以前のような交流が難しくなったが、子供会の人たちが窓拭きの掃除に訪れたり、地域の人からの介護の相談を受けたり、認知症カフェを再開するなどして、出来る限りの交流をし、地域と繋がった事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で、理念を共有し合い、さらに月に一度あるグループ会においても、ご利用者の声に耳を傾け、1人ひとりに寄り添っている。	事業所の理念を基に、ユニットごとに目標を作っている。利用者一人ひとりの小さな夢や生活の中での希望を叶え、感動や笑いの空間となるように、会議などで話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地域で行われるラジオ体操・防災訓練への参加をしたり、地域の子供会から施設訪問がありました。夏休みにはボランティアに来ていただきました。	様々な地域行事に参加し、「りんどう祭り」を開催して地域との交流を深めていた。コロナ自粛後は、子供会の人たちが窓拭きの掃除に訪れたり、地域の人から介護について相談を受けたりして交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を学び認知症の人とのかかわりを大切にし認知症の理解を深めたことを地域の方と関わる認知症カフェ、認知症サポーター養成講座などで伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々からのご意見、地域包括支援センターの方からは、困難事例への対応方法、町での取り組み課題の説明、ご利用者のご家族より貴重なご意見頂き、サービスに繋げている。	状況に応じて実会議や書面会議を行っている。地域の様子や情報を取得したり、介護方法・入居条件の質問や要望があり、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	安八郡広域連合、地域包括、福祉課等と連携を密にして連携をとっている。地域連携のための多職種会議への参加も行い、困難事例検討会も行っている。	訪問や電話などで連絡を密に取り合っている。行政主催の会議や研修会に参加し、意見を交換している。また、認知症カフェへ参加し、介護相談など積極的に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者の活動範囲を把握し、拘束は行っていない。又その都度グループで話し合いを行い、十分に注意し業務を行っている。	身体拘束廃止委員会を3か月ごとに開催している。職員はWEB版のカリキュラムを利用して研修し、報告書を提出している。スピーチロックや虐待など気づいた時は互いに注意し合い、身体拘束や虐待のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行っていない。入浴日や更衣時には、必ずボディチェックを行い、早期発見に努めている。職員同士言葉がけには、注意を行っている。		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度活用に繋げる支援体制は、出来ている。施設内での動画研修で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行っている。利用中においても不安や疑問に答えられる環境ができています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、ご家族やご利用者の参加をしてもらい、意見等を頂いている。ご意見箱を設置し、意見を頂きやすい環境にある。外部評価結果は、エレベーターホールに設置し、閲覧して頂けるようにしている。	電話などでの連絡時に意見や要望を聞いている。面会制限が続く中、自由な面会を望む声が圧倒的である。ガラス越しやタブレットを使っての面会を実施している。今後は映像などで生活の様子がわかるような工夫を考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会や全体会で、意見を徴収し年2回人事考課制度を利用して個別面談を行い、意見交換や、職員の向上心に繋げている。	個人面談時に聞いたり、質問やアイデア等を書き込むスタッフカードを作り提出してもらったりして、日常的に意見や要望を聞いている。行事計画やパソコン、タブレットの使用により書類の業務改善の提案、要望があり、対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回行われる人事考課や、業務の中で、職員との情報交換を行い、お互いに向上心を持って働けるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員の育成には、研修委員を始め職員みんなで重点を置き、個々に合った指導を行っている。資格取得時には、法人の貸付制度の支援制度もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症地域支援推進員を配置し地域住民や包括支援センターなどと連携をし地域のネットワークづくりに取り組みサービスの質の向上をしている。		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に目を配り、訴えが難しいご利用者には、こちらから声掛けを行ったり、時には職員同士話し合い、安心して生活して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時には、家族面談により情報を聞き、納得したサービスを利用して頂けるように支援している。家族様の意見は、職員間で情報の共有を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族からの聞き取った情報を基に、必要な支援を検討し、納得したサービスを利用して頂けるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者一人ひとりに担当者を決め心身の状態把握に努めている。担当者はご本人主体でできることを出来るように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との良好な関係作りを積極的に行い、シールド面会時には、最近の様子を知って頂けるようにしている。感染時の面会できない時には、WEB面会を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コミュニケーションの中で、馴染みの店やご友人の関係性など情報を得て、要望に沿った支援をしている。	コロナ禍で直接の交流は難しくなった。職員は、馴染みの人や場所の話題を日々の会話の中に多く取り入れ、手紙や年賀状の作成を手伝ったり電話を取り次いだりして、関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士のコミュニケーションを大切にし、トラブル等がないように席の場所を変えたり、職員が間に入り寄り添った介護を行っている。		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された時には、最後のお別れをさせて頂き、お礼と同時にこの先の関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりの希望に添えるよう、ご家族から情報を得たり、日常生活から把握に努め職員同士、実現に向けて支援している。	家族の情報や日々の一言を聞き逃さないように努め、記録に残して全職員で共有している。言い表せない人には選択肢を挙げて思いを把握している。お経をあげたいという人と、職員も一緒にお経を読んで思いをかなえている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日常の会話の中で、生活歴を聞き取り、ご家族から得た情報は記録に残し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者だけでなく、ご家族にも目を向け援助内容を決定、日々の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループ会等の会議で、意見交換し介護計画に繋げている。ご利用者の気持ちを大切にし、個別支援に努めている。	担当職員が毎月モニタリングを行っている。利用者・家族の要望や会議での職員の提案を基に、看護師や栄養士の意見を聞き3カ月毎に作成、状態の変化に応じてその都度介護計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録に残し、申し送りノートや日誌を活用し、多職種が連携して実践や計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時には、地域包括支援センター、民生委員などと連携してサービス提供している。併設している事業の多機能・特養の情報も交換している。		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への発信を行い、地域資源を有効に利用し、地域で支えている。コロナで地域に向くことができないので残念である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	Dr回診があり、常に看護師が健康管理を行っている。何かあればご家族への連絡等を行い適切な医療を受けて頂けるよう支援している。外部のかかりつけ医には、看護師より連絡票で情報提供している。	利用者・家族の希望で協力医に変更している。看護師が健康管理を行い、協力医の訪問診療を受けている。専門医の受診時は家族の協力を得ている。受診時は看護師の状況連絡票を持参し、受診後は情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	発熱時やケガ等日常の状態変化の時には、早急に看護師に報告している。かかりつけ医、ご家族に連絡し、適切な治療に繋げている。外部のかかりつけ医には、看護師より連絡票で情報提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院の医師、看護師、ケースワーカーと情報交換している。入院中はご家族や看護師から定期的に経過を聞き、早期に退院出来るように良好な関係に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や看取りの時期に近づいた時には、確認を行っている。終末期をどのように迎えたいかご家族とご本人の意向を伺い、希望に沿った対応をしている。又状態に応じて希望があれば特養や病院への支援もしている。	入居時に事業所の方針を説明し契約書を交わしている。状況の変化に応じ、利用者・家族と話し合っている。終末期には医師から直接説明があり、再度意向を確認している。コロナ禍でも居室に泊まり込んで寄り添えるようにして、思いに沿った支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態変化時には、オンコール体制ができており、看護師に指示を仰ぐことができている。必要時には看護師が施設に来て対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	DRT委員会が主導で訓練を年2回行っている。運営推進委員の方々へ報告したり、消防隊員への報告をし地域との協働を行っている。	夜間想定を含めた避難訓練を行い、備蓄もある。防災委員会で細かく行うべきことを明記、確認して訓練している。自治会や地元消防団に協力を依頼し、一時的な福祉避難施設である旨を伝えて、地域との協力体制を築いている。	

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関しては、グループ会等で再認識し、個々の尊厳等を大切に言葉かけや対応に気をつけている。個別になるお風呂タイムや部屋での傾聴も大切にしている。	利用者の気持ちになって行動するよう会議などで話し合っている。職員は、排泄時の声かけや血圧などの情報も大声で話さない、パットは目立たないようにして運ぶなど気配りしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を決めて頂けるような工夫を多く作っている。会話が難しい方には、しばらく様子見し、思いを伺う様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	柔軟な姿勢で対応し、個々のペースや生活リズムで過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で行える方には、好みの服をだし、着て頂いたり、理美容も定期的に行って頂き、身だしなみには心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合ったメニューや行事食を取り入れ、食べられないものは出来るだけ他のメニューで対応している。メニューから色々連想する会話が楽しみの一つになっている。	センターで献立・調理を行っている。好みや希望を伝えて対応している。利用者はみそ汁の温めや盛り付けなどを手伝っている。駅弁を取り寄せたり、寿司や天婦羅の実演をしたり、一緒におやつを作ったりして楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取は、見た目も大切で、多い時には小分けにしての提供もしている。体重測定も定期的に行い、体調の変化にも注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや義歯をご自分で洗える方はご自分で行っていただいている。定期的に歯科衛生士が入り、口腔ケアを専門的に行っている。必要時には、歯科往診に繋げている。		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、ADLや認知力に応じた支援をしている。日中はトイレでの排泄を基本とし、二人介助や誘導時間を考慮した対応を行っている。	排泄パターンを把握し、トイレに誘導している。立位困難な人も二人介助で行っている。夜間はポータブルトイレ使用の人もいるが、出来る限りトイレに誘導している。オムツの人もトイレに誘導、紙パンツに移行した人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取をすすめ一日の平均水分量を算出している。なるべく普通食を食べてもらえるようにしたり、散歩や体操に取り組んで頂けるように声掛けしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間や温度など希望に添えるようにしている。ゆず湯や菖蒲湯など季節感を味わっていただいたり、歌を唄ったりしながらの入浴を楽しんでいただいている。	一人で入浴したい人には外から見守り、車いすごと湯船に入れる設備がある。湯温や入浴時間など一人ひとりの希望に合わせた対応をしている。話を聞いたり、歌を唄ったり、ゆず湯、菖蒲湯にしたり、入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣や体調に合わせて、希望に沿った休息の時間をとって頂いている。定期的なシーツ交換や年2回布団の入れ替えも行っている。使い慣れた枕や毛布の持参もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の追加、状態変化は、ケース記入し情報を共有し合っている。薬に関しては、説明書がいつでも確認できる。看護師が管理、指導を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自分の洗濯物をたたんでもらい、生活の張り合いにして頂いている。コロナであるため職員がおやつや買い物に行き好みのお菓子を買って楽しみを持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒にゴミ捨てにも出かけ、役割を持っていただいている。四季に合わせた掲示物を増やしている。	コロナ禍で以前のような外出支援が行えなくなった。ゴミ捨てや洗濯物干しを一緒にして外気に当たる機会を作っているが、日常的な外出支援はできていない。	コロナ禍の自粛がある中でも、色々なアイデアを募り、出来る限りの支援につなげるよう工夫されることを期待する。

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時はご自分で払って頂く機会があったのですが感染対策のため外出は出来ていなく所持や支払い等支援はできていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状をご家族に出したり、ご家族に連絡を取りたい時には、施設の電話でかけて頂いたり、相談員が家族にかけたりしている。ご自分で手紙を書かれ、ご家族とのやり取りもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬には加湿器として使える空気清浄機を購入し、温度設定や、不快な匂いにも対応し、居心地の良い空間作りをしている。壁には手作りの作品を飾っている。	温度や湿度管理・換気を徹底し、手作りの作品やカレンダーを飾っている。座席の配置に気を配り、利用者と一緒にテーブル拭きやモップかけをしている。利用者は各ユニットを自由に行き来し、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を置き、好きな場所で気の合う人とおしゃべりが出来るように、気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、好みの物を自宅から継続して使用している方も見える。配置等にも考慮している。ご家族の写真を飾って心地よく過ごして見える方もいます。	ベットの配置など安全に居心地よくなるように配慮している。家族写真や遺影を飾ったり、お気に入りの本を持ち込んでいる。パットなどが外から見えるように置かれていた。	パットやポータブルトイレなどは羞恥心を考えた配慮を期待する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を干したり、たたんだりして頂くのに、動線に障害物が無いように注意している。環境整備に気をつけている。トイレにまで椅子を置き休憩できるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500029		
法人名	善心会		
事業所名	グループホーム りんどう (葵)		
所在地	岐阜県安八郡神戸町北一色555-1		
自己評価作成日	令和4年10月19日	評価結果市町村受理日	令和4年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosvoOd=2192500029-00&SerViceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和4年11月25日		

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で、理念を掲示したり共有し合っている。グループ会においても、ご利用者の声に耳を傾け、1人ひとりに寄り添っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地域で行われるラジオ体操・防災訓練への参加をしたり、地域の子供会から施設訪問がありました。夏休みにはボランティアに来ていただきました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を学び認知症の人とのかかわりを大切にし認知症の理解を深めたことを地域の方と関わる認知症カフェ、認知症サポーター養成講座などで伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々からのご意見、地域包括支援センターの方からは、困難事例への対応方法、町での取り組み課題の説明、ご利用者のご家族より貴重なご意見頂き、サービスに繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	安八郡広域連合、地域包括、高齢福祉課等と連携を密にして連携をとっている。地域連携のための地域会議への参加も行い、相談などに対応している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者の活動範囲を把握し、拘束は行っていない。又その都度グループで話し合いを行い、十分に注意し業務を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行っていない。入浴日や更衣時には、必ずボディチェックを行い、早期発見に努めている。職員同士言葉がけには、注意を行っている。		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度活用に繋げる支援体制は、出来ている。施設内での動画研修で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行っている。利用中においても不安や疑問に答えられる環境ができています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、ご家族やご利用者の参加をもらい、意見を頂いている。ご意見箱を設置し、意見を頂きやすい環境にある。外部評価結果は、エレベーターホールに設置し、閲覧して頂けるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会や全体会で、意見を聴衆し年2回人事考課制度を利用して個別面談を行い、意見交換や、職員の向上心に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回行われる人事考課や、業務の中で、職員との情報交換を行い、お互いに向上心を持って働けるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員の育成には、研修委員を始め職員みんなで重点を置き、個々に合った指導を行っている。資格取得時には、法人の貸付制度の支援制度もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症地域支援推進員を配置し地域住民や包括支援センターなどと連携をし地域のネットワークづくりに取り組みサービスの質の向上をしている。		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に目を配り、訴えが難しいご利用者には、こちらから声掛けを行ったり、時にはご家族、職員同士話し合い、安心して生活して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時には、家族面談により情報を聞き、納得したサービスを利用して頂けるように支援している。ご家族の意見は、職員間で情報の共有を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族からの聞き取った情報を基に、必要な支援を検討し、納得したサービスを利用して頂けるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者一人ひとりに担当を決め心身の状態把握に努めている。担当者はご本人主体でできることを出来るように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との良好な関係作りを積極的に行い、シールド面会時には、最近の様子を知って頂けるようにしている。感染時の面会できない時には、WEB面会を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コミュニケーションの中で、馴染みの店やご友人の関係性など情報を得て、要望に沿った支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士のコミュニケーションを大切にし、トラブル等がないように席の場所を変えたり、職員が間に入り寄り添った介護を行っている。		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された時には、最後のお別れをさせて頂き、お礼と同時にこの先の関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりの希望に添えるよう、ご家族から情報を得たり、日常生活から把握に努め職員同士、実現に向けて支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日常の会話の中で、生活歴を聞き取り、ご家族から得た情報は記録に残し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コロナ感染がご利用者、職員にあり感染対策に不十分なところがあった。感染症について周知、徹底していかなくてはいけない課題がある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループ会等の会議で、意見交換し介護計画に繋げている。ご利用者の気持ちを大切に、個別支援に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録に残し、申し送りノートや日誌を活用し、多職種が連携して実践や計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時には、地域包括支援センター、民生委員などと連携してサービス提供している。併設している事業の多機能・特養との情報も交換している。		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への発信を行い、地域資源を有効に利用し、地域で支えている。コロナで地域に向くことができないので残念である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	Dr回診があり、常に看護師が健康管理を行っている。何かあればご家族への連絡等を行い適切な医療を受けて頂けるよう支援している。外部のかかりつけ医には、看護師より連絡票で情報提供している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	発熱時やケガ等日常の状態変化の時には、早急に看護師に報告している。かかりつけ医、ご家族に連絡し、適切な治療に繋がっている。外部のかかりつけ医には、看護師より連絡票で情報提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院の医師、看護師、ケースワーカーと情報交換している。入院中はご家族や看護師から定期的に経過を聞き、早期に退院出来るように良好な関係に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や看取りの時期に近づいた時には、確認を行っている。終末期をどのように迎えたいかご家族とご本人の意向を伺い、希望に沿った対応をしている。又状態に応じて希望があれば特養や病院への支援もしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態変化時には、オンコール体制ができており、看護師に指示を仰ぐことができている。必要時には看護師が施設に来て対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	DRT委員会が主導で訓練を年2回行っている。運営推進委員の方々へ報告したり、消防隊員への報告をし地域との協働を行っている。		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関しては、グループ会等で再認識し、個々の尊厳等を大切に言葉かけや対応に気をつけている。個別になるお風呂タイムや部屋での傾聴も大切にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を決めて頂けるような工夫を多く作っている。会話が難しい方には、しばらく様子見し、思いを伺う様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	柔軟な姿勢で対応し、個々のペースや生活リズムで過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で行える方には、好みの服をだし、着て頂いたり、理美容も定期的に行って頂き、身だしなみには心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合ったメニューや行事食を取り入れ、食べられないものは出来るだけ他のメニューで対応している。メニューから色々連想する会話が楽しみの一つになっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取は、見た目も大切で、多い時には小分けにしての提供もしている。体重測定も定期的に行い、体調の変化にも注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや義歯をご自分で洗える方はご自分で行っていただいている。定期的に歯科衛生士が入り、口腔ケアを専門的に行っている。必要時には、歯科往診に繋がっている。		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、ADLや認知力に応じた支援をしている。日中はトイレでの排泄を基本とし、二人介助や誘導時間を考慮した対応を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取をすすめ一日の平均水分量を算出している。なるべく普通食を食べてもらえるようにしたり、散歩や体操に取り組んで頂けるように声掛けしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間や温度など希望に添えるようにしている。ゆず湯や菖蒲湯など季節感を味わっていただいたり、歌を唄ったりしながらの入浴を楽しんでいただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣や体調に合わせて、希望に沿った休息の時間をとって頂いている。定期的なシーツ交換や年2回布団の入れ替えも行っている。使い慣れた枕や毛布の持参もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の追加、状態変化は、ケース記入し情報を共有し合っている。薬に関しては、説明書がいつでも確認できる。看護師が管理、指導を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自分の洗濯物をたたんでもらい、生活の張り合いにして頂いている。コロナであるため職員がおやつやの買い物に行き好みのお菓子を買って楽しみを持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒にゴミ捨てにも出かけ、役割を持っていただいている。四季に合わせた掲示物を増やしている。		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にご自分で払って頂く機会があったのですが感染対策のため外出は出来ていなく所持や支払い等支援はできていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状をご家族に出したり、ご家族に連絡を取りたい時には、施設の電話でかけて頂いたり、相談員が家族にかけたりしている。ご自分で手紙を書かれ、ご家族とのやり取りもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬には加湿器として使える空気清浄機を購入し、温度設定や、不快な匂いにも対応し、居心地の良い空間作りをしている。壁には手作りの作品を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を置き、好きな場所で気の合う人とおしゃべりが出来るように、気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、好みの物を自宅から継続して使用している方も見える。配置等にも考慮している。ご家族の写真を飾って心地よく過ごして見える方もいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を干したり、たたんだりして頂くのに、動線に障害物が無いように注意している。環境整備に気をつけている。トイレにまで椅子を置き休憩できるようにしている。		